

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

専門医向け外来心身医療ガイドライン

小児心身医学総論研究班（委員長：小柳憲司 長崎県立こども医療福祉センター）

日本小児心身医学雑誌、第 21 巻第 2 号、2012 年

■1 漢方薬

疾患：

不定愁訴

有効性に関する記載ないしその要約：

一般外来における小児心身医療の薬物療法の意義の項に、下記の記載がある。

『自律神経系の不定愁訴には漢方薬の投与も有効です。ガイドラインに基づく治療で効果が乏しい場合、症状が多彩で多剤併用になってしまう場合、全身倦怠感など一般的な処方では治療が難しい場合、不安や抑うつなどの情緒的不安定さを合併している場合などは、漢方薬の使用を第一に考慮します。』